

Topic1 大規模災害に備え、対応できる防災力！

佐賀・長崎県境の幹線道路ネットワークは、多良岳を中心に

長崎自動車道及び国道34号の西側ルートと国道207号の東側ルートにて構成されています

西側ルート

幹線道路2路線が近接しているため大雪など広範囲災害時には機能不全の心配。



幹線道路の長崎自動車道と国道34号が近接



近接しているため、広範囲災害時に2路線が同時に機能不全となることに不安が募る。



東側ルート

生活エリアの通過や2車線道路であるため幹線道路としての走行性が低い。



<地域の声①>
通過交通や大型車両が生活エリアを通過するため、スーパーへの買い物や通学など歩行者の日常生活で困っている。

大雨により大規模な迂回が発生(R3.8)



<地域の声②>

大雨による通行止めは、仕事に影響があるので、早急に対策を！



期待される効果

- ① 災害時 西側ルートに対するリダンダンシーの強化
- ② 平常時 東側ルートに対する広域道路ネットワークの形成

西側移動所要時間
武雄北方IC⇔諫早IC

約32分
(通常時)

東側移動時間
武雄北方IC⇔諫早IC(迂回ルート)

[現況] 約48分短縮 [整備後]
約118分 → 約70分

※ H27全国道路街路交通情勢調査より算出

Topic2 『地域医療』を支える、高速救急搬送！

重傷患者の生死を分ける！入電から医師引き渡しまでの所要時間が短縮



有明海沿岸道路西部地区が通過する鹿島市・太良町・諫早市は、直近の第3次救急医療機関までに1時間以上を要します。第3次救急医療機関は生命に危険が及ぶような重症・重篤患者に対応する救急医療機関であり、救急搬送が不可欠です。

直近の第3次救急医療機関までに1時間以上を要するため、一刻を争う状況では長時間に及ぶ搬送時間が心配

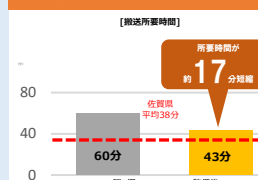


搬送時の加減速やカーブを走行する際の横揺れなど走行には患者への細心の配慮を要するため、ドライバー及び患者への負担が心配

期待される効果

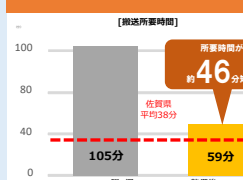
- ① 第3次救急医療機関までの所要時間が約30~44%短縮
- ② 走行性の改善により、救急車ドライバーの不安軽減、患者への負担軽減に寄与

太良町(消防本部太良分署) ▶ 嬉野医療センターへの搬送



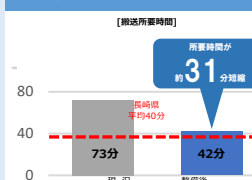
※現況はH27全国道路街路交通情勢調査で算出
整備後は一律60km/時にて算出(出動場所は最速地(最速)を想定)
※佐賀県平均の出発・R3年版救急・救急の現況(総務省(消防庁))

太良町(消防本部太良分署) ▶ 佐賀県医療センター好生館への搬送



※現況はH27全国道路街路交通情勢調査で算出
整備後は一律60km/時にて算出(出動場所は最速地(最速)を想定)
※佐賀県平均の出発・R3年版救急・救急の現況(総務省(消防庁))

諫早市(消防署基来分署) ▶ 長崎医療センターへの搬送



※現況はH27全国道路街路交通情勢調査で算出
整備後は一律60km/時にて算出(出動場所は最速地(最速)を想定)
※長崎県平均の出発・R3年版救急・救急の現況(総務省(消防庁))